

お城EXPO2023 今年も参加します



請願署名を実施します

お城EXPOは、二〇一六年
から毎年パシフィコ横浜で開催
されている日本最大級のお城の
祭典です。今年は第八回目です。



請願署名に多くの方々が署名してくれました。



2,022年会場。

ルやトートバッグなどのグッズ
も開発し、販売していく予定です。
募集告知から三日間で八十人の
応募があるなど、滑り出しは
順調です。一一月までに審査を
終え、三人の一二期メンバーが選
ばれる予定です。

江戸城アンバサダーとは

城郭文化の振興と発展、お城好きの人たちの交流を目的に開催されています。会期は一二月一六、一七日の二日間。当会は今年も参加し署名活動を行います。

今年は、お城キャラクター「家康くん」のパネルが当会ブースでお城ファンに当会活動をアピールしてもらいます。また、同じく今回の目玉である江戸城アンバサダーが登場します。会場の皆様の注目を集めることでしょう。ぜひ会員の皆様もご来場ください、盛り上げてください。会期中は、恒例の江戸城御城印、オリジナル切手も販売します。

アーネ風キャラクター 「家康くん」誕生！

お城EXPOなどのイベントで活躍するキャラクターが誕生しました。新進イラストレーターが集まるサイトで公募し、歴史好きのイラストレーターと時代考証を加え、仕上げました。

現在、アクリル製のパネルを製作中で、今後はクリアファイ

历史好き、お城ファンの若年層に向けて、情報発信力の高い若者が集うコミュニティ「ミクチャ」内で、江戸城アンバサダー制度も創設しました。

歴史好きの方程式は、最近、多くの地方自治体がチャレンジポートしてくれるアンバサダー制度も創設しました。得るのが狙いです。一二月のお城工キスボでお披露目となりま

す。（理事／高比良美穂）

●「江戸文化サロン」（江戸に学び江戸を楽しむ）がスタートします。江戸城のすそ野を広げ、江戸時代の社会政治体制・都市構造・伝統・文化・芸能等皆様が関心のあるテーマごとに学び、活動する場として「江戸文化サロン」を創設いたします。

第一回目は「江戸の食文化」をテーマに江戸食文化研究家、沼野義樹さんからよもやま話を伺った後、代表的な食べ物の一つ、天ぷらを味わっていただく趣向です。

非会員のご友人もお誘い合わせの上ご参加下さい。（一一月一八土）一二時～一四時、会場：新宿の老舗大ぶら専門店「網八つのはず庵」、会費：五〇〇円（非会員とも）、



家康くん・等身大
パネルと記念撮影もできます

●五月二十四日に太田会長の講演を聴講されたアクセンチュア株芸術部有志による「東御苑散策ツアーハー」が一〇月二九日（日）黒田涼特別顧問のガイドにて開催されることになりました。

（専務理事／木川静雄）

江戸文化サロン

太田道灌の時代から 江戸時代初期における 江戸の変遷

金子是久
当会会員

数年前に狩野関川家蔵に所蔵の長禄年間（1457～1459）の江戸古地図（複写版）を入手した際、長禄時代の江戸は、徳川の時代及び現東京の江戸城跡周辺の様子と大きく異なっていることに驚きと興味をもちました。そこで、今回、太田道灌の時代、徳川家康の江戸入城時、江戸時代初期における江戸城とその周辺の変遷について紹介することと致します。

1. 太田道灌の時代の江戸

長禄年間の江戸古地図には、太田道灌が江戸城を完成させた長禄元年（1457年）4月8日当時の江戸の様子が描かれています（図1）。江戸城の絵には太田道灌の築城の内容が書かれており、本丸（現在の江戸城本丸跡）二ノ丸跡付近）であると考えられます。城の北側には、数河川が合流する神田川と書かれた大きな沼があり、東側には平川村、櫻田村、南側には溜池（現在の



溜池山王付近）から日比谷入江に川が流れ、河川の右岸に比々谷村（現在の日比谷）がありました。この比々とは浜（ひび）淺海に柴や竹簀などを立て並べ、一方を開口して満潮時に入った魚を干（ひび）くの由来から来ています。

また、「北条家

朱印状写」牛込文書によると、大永六年（1526年10月13日）に小田原北条氏は牛込助五郎に「比々谷村陣夫、同小屋夫」の免除を許可しており、戦いに必要な食糧などの物資を運搬した場所である記録が残され、この辺りは海

江戸城の北側の芝崎村に「神田・湯島天神」、さらに東側には、現在の神田明神、それより東側の湯島村に「天神・現在の楽町駅付近）があり、当時は植物の葦（アシ）等の広がる洲であったと考えられます。

2. 徳川家康入城時の江戸

太田道灌の江戸城築城から約130年後の天正18年（1590年）8月1日に徳川家康が江戸に入城します。當時の江戸城及びその周辺の様子を鈴木（2006）の資料（図3左図）と飯田橋駅付近にある石碑絵画をみると（図3右図・著者撮影）、江戸城の位置は太田道灌の時代と同じと考えられ、城の北側（現在の九段上から飯田橋駅付近）、上・下平川村、北東側の神田村及び三崎町付近

が浅草観音（現在の浅草寺等）がそれぞれ描かれており、これらは既に存在していた神社仏閣は既に存在していました。また、当時の湯島、神田、浅草付近は、不忍池、千束池、神田川等の大きな沼と河川がつながっていたことで島状の地形であったことがわかります。當時



は水田等の農地が広がり、長禄年間に比べて城下町の整備が進んでおり、小田原北条氏の時代に整備されたと考えられます。

また、現在の飯田橋駅東側付近には、小石川大沼があり、図1の長禄年間(当時は神田川)当時の沼がそのまま残されたことがあります。また、現在の神保町は、平川の三日月湖付近に位置し、当時は湿地帯でありました。

3. 江戸初期の様子

慶長8年(1603年)に徳川家康が征夷大将軍に任命され、江戸に幕府が開かれると、家康は江戸の拡張整備を図るために、諸国の大名に対して江戸普請を発令し、大規模なインフラ整備を実施しました。鈴木(2006)の資料によると、図4右図の江戸普請発令以降の慶長11~12年(1606~07年)には、江戸城本丸の南側の紅葉山は西の丸に、北側の田安(現在の田安門付近)・山王地区は北の丸にそれぞれ整備され、太田道灌の時代に比べて城の規模が拡張されました。また、城の周囲においては、日比谷入り江が埋め立てられ、平川が城の外濠、千鳥ヶ淵及び溜池から江戸湾に注がれていた河川も内濠に整備され、さらには、日本橋を中心とした道路(中山道、甲州道、

奥州道など)、水路、運河が整備されたことで、江戸城周辺は、覗かな漁村・農村地帯から大名屋敷に大きく変貌し、現在の東京の礎となりました。

4.まとめ

長禄年間の太田道灌の時代、天正18年(1590年)の徳川家康入城時、慶長11~12年の江戸時代初期にかけての約150年間における江戸城及びその周囲をみると、①紅葉山、田安・山王地区における江戸城(西の丸・北の丸)の拡張工事、②平川、千鳥ヶ淵、溜池、神田川を活用した江戸城の外堀、内堀等の大規模工事、③日比谷入り江を中心とした大規模な埋め立てが実施されたことで、大きな変貌を遂げたことがわかります。

5.引用文献

- 1 ▼作者・作成年不明 江戸古地図長禄年間(1457)
- 2 ▼大永六年(1526年)「北条家朱印状写」牛込文書
- 3 ▼鈴木理生(2006年)江戸・東京の地理と地名 日本実業出版社



図3 徳川家康入城時(1590年)の江戸城付近の様子

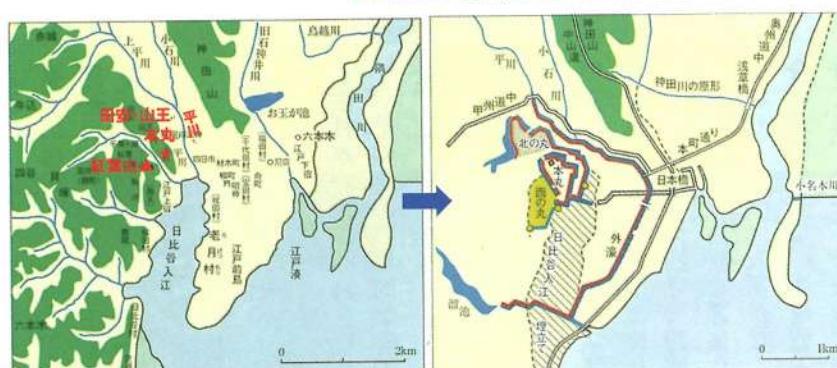


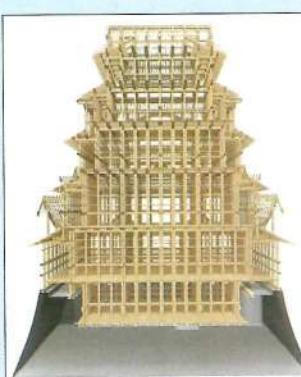
図4 江戸初期(1606~07年:右側)

江戸城天守軸組模型の材料費寄付のお願い

当会は令和六年三月頃完成をめざして、中央工学校・建築俱楽部と江戸城寛永度天守の軸組模型を共同制作します(縮尺八〇分の一くらい)。軸組模型とは壁・床がなく、木材の骨組み(柱・梁)だけで作る模型で、実際に木造再建する際、重要なステップとなります。当模型の材料費に当てるご寄付を、会員の皆様へお願いします。

中央工学校建築俱楽部によると材料費(木材の新規購入分)が一〇万円を越えないとのことですので、この額を目標にしてご寄付をお願いします。できあがつた模型は、当会が参加するイベント会場で展示するなど、両者が共同使用します。

中央工学校は、建築、設備、土木等を学ぶ専門学校。模型制作を担当する同校教官の渡邊友尚先生は、一級建築士/木造建築士であり、木造建築科のほか、サークル活動として建築俱楽部を受けもっています。当会特別顧問の三浦正幸先生がまとめた「寛永度江戸城天守復元調査研究報告書」をベースとして模型が制作されます。



江戸城天守の主要軸組

見ると窓と同意匠)が建てられしており、出入りに極めて不便だった。

また、最上階には格式高く廻縁を設け、西面を除いて中央部に華頭窓を一つずつ開き、また西北隅の二間ずつを除いて中敷居に引違の窓を開いていた。最上階だけ壁厚を薄くして柱や長押(白木)を見せており、天守として最高の格式を総て揃えたものだつた。ただし廻縁は風雨に晒されて傷むので、江戸時代後期になると板囲いをされ、戦災前の姿は板囲いの状態であった。

内部の設えについては、注目すべき特色があつた。地階を除き総ての階で身舎には長押が打たれ、二階以上の階で身舎に天井を張り、三階と四階には二間幅の床(床の間)が設えてあつた。五階では、北西部に二間四方の上段の間があつた。幕末再建の松山城天守とともに、天守内部を座敷として扱う、格式が極めて高い稀有の天守だった。

ところで、四重目の屋根は、戦災前は他の重と同じ本瓦葺(または柿葺)であった。その理由は、創建当時、五重天守は五十万石以上あるいは中納言以上の格式の大名だけに許されていたからと考えられる。四重目を板

葺にすることで、その屋根が重量に算入されるのを避け、名目上は四重、実質的には五重天守とした。幕府の建前主義の表れであろう。森忠政の津山城(岡山県)天守も四重目を板葺とし、細川忠興の小倉城天守は四重目屋根を省略しており、それらが類例だつた。

福山城天守でもう一つ注目されるのは、背面側である北面の外壁である。北面以外は白漆喰

の塗籠だつたが、北面は間近に城外が迫っていたため敵の大砲弾の直撃に耐えられるようになに黒板を張り詰め、その錆止めに黒チヤンという黒色塗料が施されていた。一階から四階までが細川忠興の小倉城天守は四重目屋根を省略しており、それらが類例だつた。

福山城天守でもう一つ注目されるのは、背面側である北面の外壁である。北面以外は白漆喰

の塗籠だつたが、北面は間近に城外が迫っていたため敵の大砲弾の直撃に耐えられるようになに黒板を張り詰め、その錆止めに黒チヤンという黒色塗料が施されていた。一階から四階までが真っ黒な総鉄板張りだつた。城門の扉や柱に鉄板を張り詰めた鉄門はあるが、天守の外壁を鉄板張りにした例は史上唯一であつた。文字通り、鉄壁の構えだつた。

福山城天守復元立面



飲酒は20歳になつてから。お酒はおいしく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。

神戸・灘 菊正宗酒造株式会社



KIKU MASAMUNE TSURU SAKE
MEISTER FACTORY



手仕事でなければ、決まらない味がある。



菊正宗

樽酒

